

2014年10月5日礼拝 石原和恵姉証し

「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。」(ピリピ:13)

「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」(エペソ1:10)

今朝、皆さまの教会で証しできることを感謝いたします。遠藤先生、のぶさん、大場さんたちと出会ってこのような機会が与えられた主の恵みに、特に感謝いたします。

私は愛知県で生まれ、千葉に引っ越した後、関東のミッション系の短大を卒業しました。そのときに一般教養的ですが、主のみことばに触れました。しかし、信じるまでにはいたりませんでした。その後、東京の企業に何年か勤めたあと、「一体自分は何のために生きているのか、何をしたいと思っているのか」と考えるようになりました。そのときに思っていたのは「外国に行ってみたい、そこで生活してみたい」という以前持っていた願いでした。

そして、シンガポールで仕事をするという機会が与えられました。しかし、そこでの生活は大変で、言葉の問題もあり、新しい仕事をしていくという過程の中で、徹底的な孤独というものを味わうことになりました。外国に来たとは言ってもなかなか光が見えない中、当時の上司がいろいろなことで悩み、うつ病になってしまいました。そして、そのことで私に依存するようになってしまい、私自身がずっしりと重い荷物を負わされたような状態になってしまいました。そんなとき私がミッション系の大学に行っていたことも影響したのか、「この上司は聖書を知り教会に連れて行けば何とかなるのではないか」という思いになり、会社の同僚が自宅解放して開いていたセルグループに参加するようになりました。私もそこで共に聖書を学ぶ生活がはじまりました。上司にとってそれがとても響いたようで、主を信じ、突如として力強くなってしまいました。しかし、その彼をつれていった私自身は「これほど私が辛い目に合わされて、どうして自分が救われたとって喜べるの?」という疑問と、ちょっとしたねたみもあったのか、なかなか主を受け入れるというところまではいきませんでした。

しかし、短大時代に学んだ聖書の言葉に再びふれ、クリスチャンの方々との交流を通して、主に対して心開けるようになり、私自身も主を受け入れるようになりました。「信者たちの交わりの中で」主が働かれるということも体験しました。さらに逆境の中での「主の恵み」を強く実感しました。また、みことばを知性で知っているということと、みことばを信じて行動するということがまったく違うことなのだ、ということを経験し、これは最も大きな発見でした。



シンガポールでの生活も4年が過ぎ、日本に帰りたいという思いがありました。しかし、帰国後にどうかという心配事がやってきました。以前とはちがひ、主を信じていたので多少の余裕はありましたがそんな時、東京からAT&Tの日本支社社長がシンガポールに来られ、ご案内することになりました。将来のことを少し話すと「それならうちの会社で面接してあげようか」ということになり、晴れて入社することになりました。このことで主は私への門を開いてくださり、東京での勤務を経て、3年後には日系企業顧客サポートのために

中国の上海へ勤務異動いたしました。以前のシンガポールでの生活の孤独と苦勞を経験していたので、上海にいる单身者に寄り添ってあげたいという思いがありました。中国での生活を送りながら、会社から与えられた大きなアパートの部屋を生かしたいという考えが生まれ、そこで駐在中の日本人等の集まるミーティングを始めました。私はそこではリーダーというよりも食堂のお姉さんで、みんなに食べさせ、交わり、イエスに感謝するという日々を送り、小グループのダイナミズムをよく経験し、そのことが現在のシェアハウスにつながっています。



上海での約4年半の勤務の後、日本に帰任することになりました。実家の父が名古屋でしたので名古屋支社に2年勤務し、その後東京支社での勤務に就きました。

毎週名古屋—東京を往復しながらの生活で礼拝は「華人の家」という教会に集い、そこに集まる日本人グループのケアをさせて頂きました。そんなとき、AT&Tでの自分のミッションをやり終えた感覚があったことや、生まれ故郷である名古屋に根付いて主の働きをもっとしたいという思いから、AT&Tを退社しました。退職金で名古屋大学の近くに一軒の中古住宅を買い、リフォームし、そこを学生や宣教団体に使っていただくという10年ほど祈り備えていたシェアハウス・ミニストリー「グレイスハウス」を立ち上げました。その後他にも使わせて頂ける場所が出てきて、3件の住宅をミニストリーに使えるようになりました。思えば独身で自分の家族と言えるものがなかった私に、主は中国時代から今に至るまで大きな家族を与えてくださり、時には母親のように、同年齢の方々には姉妹として、つき合わせていただきました。今の生活もその延長上にあり、主は私の祈りを聞いてくださり、喜びを与えてくださる方だと教えられました。私たちを用いてくださるだけでなく、その働きに喜びと発見を与え、日々励ましてくださる主は何と素晴らしい方でしょうか。



グレイスハウスの開始

名古屋大学・南山大学 徒歩圏内
いりなか かわな 徒歩10分



グレイスファミリーの
バイブルスタディ

近所の方々

飢餓対策機構の
BBQイベント

現在、名古屋の中心部近くに建設中のビルの1階フロアにてハワイアンカフェ「ハレラニ・テラス」（天国のテラス）を開店しようと準備中です。まだ仕事をしていた頃、紹介いただいたハワイ在住のクリスチャンの方が名古屋地区にビルを建てたいということで、少しばかりお手伝いしていたところ、そこで働きたいというスタッフが集まってしまいました。その話をいただいてからハワイにスタッフチーム（全員ノンクリスチャン）と研修に行った際に数名が救われ、クリスチャンの方からビジネスコーチングの研修を受けたこともあって、今では定期的なバイブルスタディに発展いたしました。開店は来年初夏の予定ですが、まずは従業員がイエス様の価値観で働けるようになること、救われることを目指しています。カフェ事業のプロが集まっているわけでもないので主の導きが本当に必要です。

しかし、数年前には思っていなかったことが実現しているのをみると主のご計画は人の想像をはるかに越え、天高く舞い上がっていくものだと、心から謙遜にさせられます。

人の孤独を癒したいという思いが常に私の心であり現在は、シェアハウスやカフェなど人が集まる場所で福音がわかちわれるように、人や場所、経済性を整えて行くという働きが中心です。主は計画を与え、主の方法で成し遂げてくださる。どんな方にも良くしてくださることを覚えて、こころから感謝いたします。

「見よ。兄弟たちが一つになって共に住むことは、なんというしあわせ、なんという楽しさであろう。主がそこに永遠のいのちの祝福を命じられたからである。」詩 133: 1,3

グレイス・ハウス Facebook page <https://www.facebook.com/gracehouse.nagoya>